

# うっしっしいー情報2024

6月市



豊岡農業改良普及センター

6月12日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が94万9千円、雌が74万1千円でした。

普及センター調べ（税込価格）  
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	1	1.055	991,100	-	-	-	1	991,100
丹波篠山	4	0.955	909,425	5	0.810	787,160	9	841,500
丹波	18	1.040	956,694	17	0.862	695,265	35	829,714
朝来	6	1.035	1,001,550	4	0.870	770,000	10	908,930
播磨	11	0.887	859,800	10	0.756	493,680	21	685,457
美方郡	39	1.006	950,879	24	0.870	780,313	63	885,902
豊岡	10	0.934	874,940	9	0.843	750,689	19	816,084
養父	16	1.002	1,024,375	11	0.869	899,600	27	973,541
摂津・神戸	5	1.049	964,260	14	0.839	746,821	19	804,042
県北C	1	1.046	979,000	2	0.855	756,250	3	830,500
市場全体	111	0.995	949,013	96	0.846	740,827	207	852,463

# 6月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸若土井	19	1.009	1,027,574	14	0.819	757,507	33	913,000
2	山伸土井	19	1.047	965,800	8	0.866	770,000	27	907,785
3	丸彩土井	6	1.022	918,867	6	0.880	793,833	12	856,350
	総計	111	0.995	949,013	96	0.846	740,827	207	852,463
4	丸春土井	9	0.969	947,956	12	0.874	757,900	21	839,352
5	照和土井	5	1.010	919,820	8	0.869	750,063	13	815,354
6	丸池土井	9	0.981	944,778	12	0.818	717,017	21	814,629
7	藤彦土井	8	0.937	882,338	6	0.881	724,350	14	814,629
8	忠味土井	10	0.993	921,470	17	0.823	714,806	27	791,348

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

## ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸若土井	B	A+	A++	A+	A++	A+
2	山伸土井	A+ → A	A++	D	A+	A+	A
3	丸彩土井	B	B	A++	C	A	C
4	丸春土井	C	B	C	B	B	A+
5	照和土井	A++	A	B	B	B	A → B
6	丸池土井	C	A++	D	B	A++ → A+	A++
7	藤彦土井	A+	A	C	D	D	A → B
8	忠味土井	B	A+	A	C	A → A+	A+



バックナンバー  
← はこちらから

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和6年2月現在)

# 「子牛の活動監視システム」導入事例の紹介

「牛舎に行くと、子牛の様子がいつもと違う。子牛の状態はいつから悪くなっていたのか。もう少し早く気付いていれば…」  
このようなご経験がある方は、多いのではないのでしょうか。  
今回は、他地域において、「子牛の活動監視システム」を導入した牧場の事例を紹介しますので、参考にご覧いただければと思います。この牧場では、システムの活用により子牛の状態をいち早く確認でき、早期治療につながっています。

## 1 「子牛の活動監視システム」のしくみ

今回導入した子牛の活動監視システムは、子牛の首にタグをつけたベルトを装着すると子牛の活動量が記録されるものになります。活動量が減少すると、あらかじめ登録しておいたパソコンやスマホに警告や注意などのアラートが届き、子牛の異常が早期に発見できます。また、活動量のデータが残っているので、前日、前々日からの体調変化も確認できます。アラートは、「正常」、「要注意」、「危険」の3種類の状態が、色、顔の絵文字、状況を表す文字の組み合わせで示されます(図1)。



図1 「子牛の活動監視システム」のしくみ

## 2 子牛の疾病の早期発見は可能？

この牧場では日頃から子牛の観察を大切にされていますが、子牛の活動監視システムを導入したことで、子牛の状態がより把握しやすくなり、日々の飼養管理において有効な技術だと手応えを感じておられます。以下は牧場での聞き取りです。

- ・子牛は、個体により活動量に差があり、成長に伴い変化していくので、個体ごとの日々の活動量が更新されグラフで確認できることは子牛の体調管理の上で大変参考になった。同じマスの子牛は同じような動きをするので、グラフの波形が1頭だけ違うと発見しやすかった。
- ・元気がなくなる、うずくまるなど活動量の減少を伴う疾病は初期段階で気づきやすく、早期発見・早期治療につながった。

### 疾病別の発見状況

- 【発熱】元気に見える子牛の微熱も発見可能。発熱しても元気な子牛もいるので100%ではなかった。月齢が小さい子牛の発熱はほぼ発見可能。
  - 【マイコプラズマ、膝の腫れ】マイコ性関節炎やマイコ性中耳炎など痛みを伴う疾病は活動量が減少するので早期発見が可能。
  - 【下痢】月齢の小さい子牛のウィルス性下痢は著しく活動量が減少するので早期発見が可能。月齢の大きい子牛の下痢(過食など)は発見しにくい。コクシジウム、水便、血便などはグラフの波形に現れ発見可能。
  - 【皮膚病】痛みを伴わず、活動量の変化が少ないために、発見しにくかった。
- ・早期発見・早期治療により重篤な状態になる子牛がほとんどいなくなった。また、疾病からの快復状態も活動量として確認できるので、経過観察する上で頼りになり、治療継続の判断に役立っている。そのため、市場出荷までの状態が良く、管理が楽になった。多くの子牛を管理する牧場では、このシステムは大変効果的だと実感している。今後は、虚弱に生まれた牛や、観察が必要な個体を中心に、育成期前半で活用する予定。

## さいごに

疾病を早期発見・早期治療し、子牛を大きく育てるためには、皆さんが行われている日々の観察が第一です。その上で、今回の事例のようにスマート技術の導入により、人間だけでは限界があることをいち早く把握することができます。一方で、導入にはコストもかかるため、経営を行う上でどのように活用するのか十分に考え、導入することが大切です。今回の事例も参考に、みなさんの経営に合ったやり方でより良い子牛を育てましょう！